【】と【（風・のが吹き込まれること）】

　　　　令和４年７月３日

◎白隠禅師（臘八示衆）　読み方を変えてみました。

１．はにず。の く にす。

のくのをせんとする、…

し**、 にち、す**。

原文：坐禅通一切諸道。八百万神 悉皆身中鎮坐矣。如此欲祭祀鎮坐諸神者、…

**竪起脊梁骨 充気丹田 正身端坐**。

◎昭和22年（75年前）の高校の国語の教科書から：

２．●「ロダンの遺言」（深田訳）

**「美」の祭司たらんと志す**若き人たち、諸君はおそらくここに載せる長き経験の要約を喜んで見てくれるであろう。

**敬虔なる心をもって愛せよ**。諸君に先行せる もろもろの巨匠たちを。

**頭を下げよ**、フィディアスの前に、そうしてまたミケランジェロの前に。

賛嘆せよ、前者の**こうごうしき静けさ**を、後者の**激越なる苦悩**を。

賛嘆こそは気品ある人々の酔うにふさわしき良酒である。…

３．諸君は芸術家としての諸君の**天職を熱愛せよ**。

諸君の天職よりもより美しきものはない。

そは、常人の思惟（しい）しているよりもはるかに高きものである。

４．●「ロダンの遺言」の言いかえ

　「正身端坐」、すなわち歪みなく苦行から解放された姿勢の祭司たらんと志す仏道修行者よ、

　敬虔なる心をもって愛せよ。諸君に先行せる先聖（せんしょう）を。

　頭を下げよ、ブッダの前に、そうしてまたフィディアスの前に。

　賛嘆せよ、激しい苦悩の只中にいる私たちを救護せんとする慈悲心を。

◎プラトン著（BC年頃～年頃）『饗宴』

５．●ファイドロスが「愛」について語る場面から：（岩波文庫、久保勉訳）

　いやしくも**美しく生きんと欲するすべての人にとって、その全生涯の指針となるべきもの**、それを愛（エロス）ほどあんなに見事にその魂に植えつけることは、血縁にも、栄誉にも、富貴にもその他の何ものにもできないからである。…

６．ましてや愛する少年を見捨てて逃れたり、あるいはその危地に陥るのを見てこれを救い出そうともしなかったりするほど――エロス自らの与える霊感（**ἔνθεος）**によって勇気づけられ、その結果生来の最勇者にも比肩し得るようにならぬほど、それほどの臆病者は、一人も無いのである。

**ἔνθεος:** having a [god](https://en.wiktionary.org/wiki/god) in one; [possessed](https://en.wiktionary.org/wiki/possessed) or [inspired](https://en.wiktionary.org/wiki/inspired) by a god, divine

７．それで疑いもなく、ホメロス［『イリアス』10-482と15-262］が、神はある半神たちに「**勇気を吹き込んだ**」（[**μένος**](https://www.perseus.tufts.edu/hopper/morph?l=me%2Fnos&la=greek&can=me%2Fnos0&prior=*(/omhros)[**ἐμπνεῦσαι**](https://www.perseus.tufts.edu/hopper/morph?l=e%29mpneu%3Dsai&la=greek&can=e%29mpneu%3Dsai0&prior=me/nos)）と語っているところのもの、それこそエロスが彼の賜物として愛者達に与えるものなのである。…

こんな風に神々もまた愛のためにする献身と勇猛心とをきわめて尊重する。

**εμπνέω: inspire、息をはきかける、吹き込む**

**μένος:**  [mind](https://en.wiktionary.org/wiki/mind), [desire](https://en.wiktionary.org/wiki/desire), [ardor](https://en.wiktionary.org/wiki/ardor), [wish](https://en.wiktionary.org/wiki/wish), [purpose](https://en.wiktionary.org/wiki/purpose), [anger](https://en.wiktionary.org/wiki/anger), [**courage**](https://en.wiktionary.org/wiki/courage), [spirit](https://en.wiktionary.org/wiki/spirit), [vigor](https://en.wiktionary.org/wiki/vigor), [**power**](https://en.wiktionary.org/wiki/power), [strength](https://en.wiktionary.org/wiki/strength), [force](https://en.wiktionary.org/wiki/force), [violence](https://en.wiktionary.org/wiki/violence)

７’●別訳（光文社、中澤訳）

じっさい、どれほどの臆病者であっても、そのうちに**エロスが宿ればἔνθεος**、この神が彼を勇敢にしてくれます。彼は、極めて勇敢に生まれついた者と同じくらい勇敢になれるのです。ホメロスの言葉に、「神が英雄たちのある者に、〈**力を吹き込むεμπνέω**〉」とありますが、まさにこれこそ、エロスが愛する者たちに与えてくださることなのです。

８．●『饗宴』でのソクラテスの主張の結論

それだからこそ**私はあえて主張するのである、人は皆エロスを尊重せねばならぬと、そうして私自身も愛の道を尊びかつ何よりも熱心に練習しているし、また他人にもそれを勧告している。で、また私は今もいつまでも、エロスの偉力（デュナミス）と勇気（アンドレイア）とを微力の及ぶかぎり讃美するのである**。（岩波文庫、久保訳）

◎プラトンが『饗宴』で引用したホメロス著『イリアス』の箇所：

９．●『イリアス』第10歌482

オデュッセウスがこういうと、眼光輝く**アテネは**ディオメデスに**力を吹き込み**[**ἔμπνευσε**](http://www.perseus.tufts.edu/hopper/morph?l=e%29%2Fmpneuse&la=greek&can=e%29%2Fmpneuse0&prior=d%27)[**μένος**](http://www.perseus.tufts.edu/hopper/morph?l=me%2Fnos&la=greek&can=me%2Fnos1&prior=e)/mpneuse)、彼は右に左に敵を薙ぎ倒し、太刀に撃たれた者のあげる呻き声が凄まじく起り、地面は血潮で赤く染まる。（松平訳）

１０．●『イリアス』第15歌262

　こういうと、**アポロンは**軍勢の牧者に**大きい力を吹き込んで**やったが[**ἔμπνευσε**](http://www.perseus.tufts.edu/hopper/morph?l=e%29%2Fmpneuse&la=greek&can=e%29%2Fmpneuse0&prior=ei)pw\n)[**μένος**](http://www.perseus.tufts.edu/hopper/morph?l=me%2Fnos&la=greek&can=me%2Fnos0&prior=e)/mpneuse)[**μέγα**](http://www.perseus.tufts.edu/hopper/morph?l=me%2Fga&la=greek&can=me%2Fga0&prior=me/nos)――あたかも厩（うまや）に繋がれた馬が、飼葉に腹ふくらませて綱を切り、清流に水浴びする日頃の慣いを忘れず、蹄を鳴らし意気揚々と野面（のづら）を駈けてゆくよう。

◎フィディアスが何を手本（パラダイム）にしてゼウス像を作ったか：

１１．●ストラボン著（BC64年頃～AD23年頃）『ギリシア・ローマ世界地誌Ⅰ』

　フィディアスについての話として伝わっているところによると、

「**あなたは何を手本παράδειγμαにしてゼウスの似姿εἰκώνを制作なさるつもりですか**」

たずねる甥に向って工匠［＝フィディアス］はいった、

　 παράδειγμα：pattern, model paradigm, example, lesson

 **εἰκών:** figure, image, likeness, portrait, image in a mirror, reflection

１２．「**ホメロスがこんな詩句を使って描いて見せた姿を手本にしてだ**」。その詩行は――

**こう言って、か黒の眉にクロノスの子**［＝ゼウス］**がうべないの首を下げれば、**

**香ぐわしい神髪は、それ、不死なる御神の頭よりさっとばかりに**

**垂れなびくと見え、オリュンポスの大峰をおどろと揺った**

◎ホメロス著『イリアス』から、ゼウスがうなずき大風が起る箇所：第一歌528

１３．●ホメロス著『完訳イリアス』（小野塚友吉訳、風濤社、37頁）

**「さあ、うなずいてやるぞ、納得したかな。神たちさえ、わしがうなずくのを見て、一番たしかな保証のしるしをもらったと、安心するのじゃ。いったんうなずけば、偽りであったなどと、取り消すことはない、必ず、ことは成就させるのじゃ**」

　**大神が黒い眉を伏せてうなずきます。神々しい髪がばさりと垂れ、オリュムポスの峰々が揺れ動きます**。

１４．●別の訳：松平千秋訳、岩波文庫、36頁：

**さあ、そなたが得心（とくしん）のゆくように、こうして頷いて見せてやろう。神々の間では、それがわしの与える一番確かな保証の印じゃ。わしが一旦よしと頷いたことは、決して取り消すことも欺くことも、また果さずにおくこともない。**」

　**こういってクロノスの子が漆黒の眉を俯（ふ）せて頷いて見せると、神々（こうごう）しい神がゼウスの不死なる頭から靡（なび）き垂れて、オリュンポスの巨峰もゆらゆらと揺れ動いた**。

◎オリンピアのゼウス像の前で、AD百年頃になされた講演から。

●ディオン・クリュソストモス［40年頃から114年以降。ギリシアの弁論家］が101年か105年にオリンピアのゼウス神殿で行なった講演で、「フィディアスの弁明」を語った。

１５．　「制作者のうちで最も優れた第一人者たる君よ、これまでここへ頻繁に群れをなしてやってきた**ギリシア人と異国の者すべてのために、君が、快い魅力的な見ものを、言い表わしがたいほど喜ばしい鑑賞物を、作り上げたということは、誰も否定しないだろう**。…

**人間で、その生において多くの禍いと苦悩を味わい、快い眠りすら自分に与えられずに胸中苦悶している者も、この像（εἰκών、エイコーン）の前に立てば、人間の生に出来**（しゅったい）**する恐ろしい辛い経験をすべて忘れてしまうことだろう**。

１６．君は、そのような見ものを考案し作り上げた。それはまことに、

　　　　**悲しみや怒りを抑え、すべての禍いを忘れさせるもの**

である。**君の技が生み出した作品にはそれほどの光（**φῶς**）、それほどの魅力（**χάρις**）が備わっている**。」

１７．　フィディアスの弁明

これに対してたぶんフィディアスはこう答えるであろう。…

　「ギリシャの人々よ、これは、これまで行なわれたもののうちで**最も重大な裁判**である。なぜなら、今わたしが弁明を求められているのは、一つの国家が統治権や指導権を握るべきか、とか、船隊の規模や歩兵隊の統御のこととかの問題ではない。

１８．いやそれは、すべてを支配下に置いている神［ゼウス］に、また、彼を模写したわたしの作品［ゼウス像］に関わることなのであり、**それがしかるべき仕方で、神に似つかわしく行なわれているか、神を写し取るにさいして人間に可能なかぎりの力を尽くしているか**、それともそれは神に相応する質のものではなく、ふさわしいものでもないのか、**という問題なのである**。」

◎ロダンの言葉

１９．●遺言（高村光太郎訳）

「美」の司祭でありたいと思う青年諸君。ここに一つの長い経験の決着を見る事は多分君たちを喜ばせるでしょう。

**君たちに先だつ大家たちを心を傾けて愛されよ**。

**フィディアスとミケランジェロとの前には平伏せよ**。前者の神々しい明浄、後者の**猛烈な惨痛を讃嘆せよ**。讃嘆は高い精神に対する一つの醇酒です。…

２０．　**情熱をもって君たちの使命を愛せよ。これより美しい事はない。**

**君たちの使命は凡俗の考えるよりも遥るかに高い。**

２１．●この三人の女が坐っているに過ぎません。がその姿勢が実に滑らかで実に高貴で、まるで**眼に見えない絶大なある物に関与している**気がします。

彼らの上にはまったく**大きな神秘が統治しています**。即ち、**無形な、永遠な「理法」**です。これには全「自然」が服従します。そしてこの女神もまた彼ら自身その天上界の召使なのです。

こうして**すべての大家は立ち入れない「不可知」の領域の園**まで前進しています。

２２．●**形を普遍化する天賦、即ち生きた現実を空虚にする事なしに形の理法を表わす天賦を持っている芸術家は、みな同じ宗教的感情を生み出します。なぜと言えば、彼は不朽の真実の面前で彼自身体験した戦慄をわれわれに伝えるからです**。

２３．●**何を生命と呼ぶか**。あらゆる意味から**君を激動させるもの、君を突き貫くものの事**です。…

古代彫刻の作った魂は私の陳列箱の中で**われわれ自身のよりも活きている！**

２４．●**古代彫刻！　私は自分が彼に対して持つこの永遠の愛に生きねばならない事を感ずる。**

２５．◎私が15歳で読んだロマン・ロランの本から。

**諸君がみずから意識しないときですら諸君は古代の諸彫刻作品の石の心臓に眠っている息を吸い込んでいるではないか。フィディアスの感覚と理性と生命の火との調和を吸い込んでいるではないか。**

２６．◎西田幾多郎「美の本質」から

**フィディヤスの鑿の尖**（さき）**から、… 流れ出づるものは、…過去の過去から彼の肉体の中に流れ来った生命の流れである。彼等の中に溢れる生命の流れは、最早彼等の身体を中心とする環境の中に留ることができないで、新なる世界を創造するのである**。… **そこには生命の大なる気息le grand souffle de la vieがある**。

◎法然上人（『浄土宗聖典　第四巻』から）

２７．●念仏申す機は生まれつきのままにて申すなり。前（さき）の世の仕業（しわざ）によりて今生（こんじょう）の身をば受けたる事なれば、この世にては え直し改めぬ事なり［「え」は、「とうてい～できない」の意味］。譬えば女人（にょにん）の男子（なんし）にならばや［なりたい、の意味］と思えども、今生の中（うち）には男子とならざるがごとし。智者は智者にて申し、愚者は愚者にて申し、慈悲者（じひしゃ）は慈悲ありて申し、邪見者（じゃけんしゃ）は邪見ながら申す。一切の人みなかくのごとし。さればこそ阿弥陀仏は十方（じっぽう）衆生とて、広く願（がん）をば発（おこ）してましませ。

２８．●されば念仏往生の義を深くも堅くも申さん人はつやつや［全く、の意味］本願の義を知らざる人と心得（こころう）べし。

２９．●本願の念仏には一人立ちをせさせて助（すけ）をささぬなり。助と申すは智慧をも助にさし、持戒をも助にさし、道心をも助にさし、慈悲をも助にさすなり。それ善人は善人ながら念仏し、悪人は悪人ながら念仏して、ただ生まれつきのままにて念仏する人を念仏に助ささぬとは申すなり。